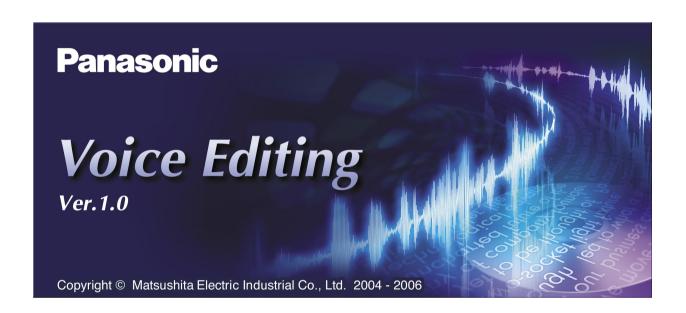
Panasonic®

取扱説明書

音声ファイル管理ソフト

Voice Editing Ver.1.0

Light Edition for D-snap Audio

このたびはお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

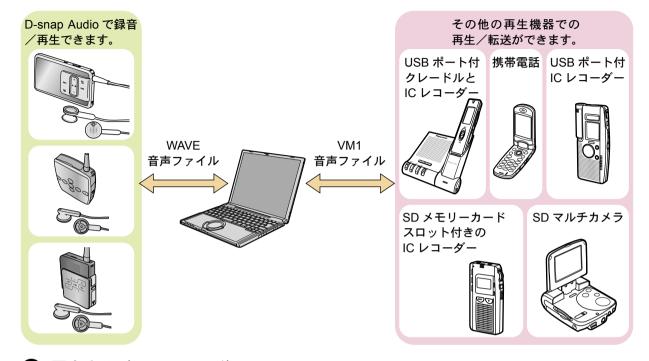
■ この取扱説明書と機器本体の取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。

- Windows の基本操作やコンピューター、周辺機器の取り扱いについては、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 本書では、OS が Windows XP のときに表示される操作画面例を使用しています。また、本書のイラストや画面は一部実際と異なる場合があります。

MSC0150AD_J_XA

こんなことができます

Voice Editing Ver.1.0 は、音声ファイルの再生、編集、管理などを行うことができます。SD メモリーカードに記録した音声ファイルをパソコンに取り込むこともできます。

Ⓐ 再生する（☞ 12 ページ）

繰り返し再生する（☞ 16、17 ページ）
再生スピードを調整する（☞ 19 ページ）

Ⓑ 編集する（☞ 20 ページ）

ファイルを分割する（☞ 21 ページ）
コピー／貼り付け（☞ 21 ページ）

Ⓒ 保存

WAVE 音声ファイルを保存する（☞ 10 ページ）
VM1 音声ファイルに変換して転送（保存）する（☞ 24 ページ）

■ 音声ファイルについて

Voice Editing で再生 / 編集できる音声ファイルは、下記の通りです。

- WAVE 音声ファイル
  Voice Editing Ver.1.0 では、リニア PCM の WAVE 音声ファイルの再生／編集ができます。
- VM1 音声ファイル
  VM1 音声ファイルには、G.726 と ADPCM2 の 2 種類があります。

お知らせ

詳しい内容については、「扱える音声ファイルの形式（☞ 6 ページ）」を参照してください。

もくじ

お使いになる前に

すぐ使う

さらに使いこなす

必要なときに

必要なシステム構成

Voice Editing Ver. 1.0 Light Edition for D-snap Audio をお使いいただくためには、下記のような性能を満たしたパソコンが必要です。

■ **対応パソコン**：下記対応の OS がプリインストールされた IBM PC/AT またはその互換機

NEC PC- 98 シリーズとその互換機では動作保証しません。

■ **OS**：Microsoft® Windows® 2000 Professional ※（以降、「Windows 2000」と記載します。）
Microsoft® Windows® XP Home Edition/Professional ※（以降、「Windows XP」と記載します。）

※ 管理者の権限を持つユーザー（Administrator）で使用できます。マルチユーザーには対応していません。

- Windows® 3.1、Windows® 95、Windows® 98、Windows® 98SE、Windows® Me、Windows NT® および Macintosh には、対応していません。
- OS のアップグレード環境での動作は保証しません。

■ ハードウェア

- CPU　　　　　　：Intel® Pentium® III 500 MHz 以上
- RAM　　　　　　：256 MB 以上
- ハードディスク　：50 MB 以上の空き容量
  - Windows® のバージョンや音声ファイルにより、別途空き容量が必要です。
  - Acrobat® Reader®（付属）をインストールする場合、別途約 25MB の空き容量が必要です。
  - DirectX® 9.0b（付属）をインストールする場合、別途約 50MB の空き容量が必要です。
- ドライブ　　　　：CD-ROM ドライブ（インストールに必要）
- サウンド　　　　：Windows 互換サウンドデバイス
- ディスプレイ　　：High Color（16 bit）以上　デスクトップ領域 800 × 600 以上（1024 × 768 以上を推奨）
- インターフェース：USB ポート（USB ハブおよび USB 延長ケーブルで接続した場合は、動作を保証しません）
- その他　　　　　：マウスまたはマウスと同等のポインティングデバイス

次ページへ続く ▶

必要なシステム構成

お知らせ

- ハードウェアの環境について、下記のご注意があります。
  - マルチ CPU 環境 には対応していません。
  - マルチブート環境 には対応していません。
  - 64 ビットパソコンでの動作は保証していません。
  - 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
  - お客様が自作されたパソコンでの動作は保証していません。

■ 必要なソフトウェア

DirectX® 8.1 以降／ Internet Explorer 5.5 以降

お知らせ

- このソフトウェアと下記のシステムを同じパソコンにインストールしてご使用になることはできません。
  下記のソフトウェアをアンインストールしてからこのソフトウェアをインストールしてください。
  - Voice Editing Ver.1.0 Premium Edition
  - Voice Editing Ver.1.0 Professional Edition
  - Voice Editing Ver.1.0 Mobile Edition
  - Voice Editing Ver.1.0 Light Edition
  - Voice Editing Ver.1.0 Free Edition
  - Voice Editor 3　- Voice Editor 2　- Voice Editor 2 for H"
  - Voice Studio Ver.2.0　- Voice Studio Ver.1.0
  - SD Voice Editor Ver. 1. x
- 以前のバージョンで作成した VM1 音声ファイルは、アンインストールを行っても削除されませんので引き続き使えます。ただし、ファイル保全のためにバックアップを取っておくことをお勧めします。

扱える音声ファイルの形式

WAVE 形式ファイル

Voice Editing Ver.1.0 では、リニア PCM の WAVE 形式ファイルの再生／編集ができます。

Panasonic SD オーディオプレーヤーで録音される音声ファイル

SD オーディオプレーヤーで録音した音声ファイルは、サンプリング周波数 8kHz ／ビット数 16bit の WAVE 形式ファイル（リニア PCM）です。
Voice Editing Ver.1.0 では、この音声ファイルの再生／編集ができます。

お知らせ

SD オーディオプレーヤーには、時計機能がありません。
このため、SD オーディオプレーヤーで録音した WAVE 音声ファイルの録音日時は、「2006/01/01 00:00」となっています。

■ D-snap Audio についてのご注意

下記の SD オーディオプレーヤーで録音した音声ファイルは、VM1 形式ファイルで圧縮形式が「G.726」です。

-SV-SD750V　-SV-SD350V　-SV-SD100V

これらの機種で録音した音声ファイルについては、「VM1 形式ファイル」の「SD オーディオプレーヤーなどで録音される音声ファイル（☞ 7 ページ）」を参照してください。

お知らせ

WAVE 音声ファイルで使用できる機能については、各説明項目のタイトル右に W マークをつけています。

次ページへ続く ▶

扱える音声ファイルの形式

VM1 形式ファイル

SD オーディオプレーヤーなどで録音される音声ファイル

圧縮形式　：G.726
Voice Editing Ver.1.0 でのアイコン：（SD オーディオプレーヤー／携帯電話／ビデオカメラマーク）
録音モード：SP（スタンダードプレイ）、LP（ロングプレイ）
※「LP」モードは、携帯電話のみです。

G.726	フォルダー数制限	ファイル数制限
	001 ～ 999	001 ～ 999

対応機種については、61 ページを参照してください。

VM1 音声ファイルは 8 分 24 秒ごとに分割されて保存されます。8 分 24 秒を越える VM1 音声ファイルがある場合は、1 フォルダーあたりの保存できるファイル数が 999 個より少なくなります。（☞ 52 ページ「フォルダーと音声ファイル」の「ファイル数」）

Panasonic IC レコーダーで録音される音声ファイル

圧縮形式　　：ADPCM2
Voice Editing Ver.1.0 でのアイコン：（IC レコーダーマーク）
録音モード　：HQ（ハイクオリティ）、SP（スタンダードプレイ）、LP（ロングプレイ）

ADPCM2	フォルダー数制限	ファイル数制限
メモリー内蔵タイプ IC レコーダー	001 ～ 004（固定）	001 ～ 099
SD メモリーカード（IC レコーダーに装着時）	001 ～ 009	

対応機種：RR-XR320/330、RR-US007/009/520/620　（2006 年 4 月現在）

お知らせ

- WAVE 音声ファイルと VM1 音声ファイルは、相互に変換できます。（☞ 24 ページ「変換（転送）する」）
- VM1 音声ファイルは音声データを圧縮しているため、WAVE 音声ファイルよりも少ない容量で保存することができます。
- VM1 音声ファイルとサブフォルダーは一定の形式、名前、構造で保存されます。（☞ 52 ページ「ハードディスク内のフォルダー構造」）
- 各 VM1 音声ファイルの録音モードは音声ファイル一覧の「モード」欄に表示されます。
- ？で示される VM1 音声ファイルは、保存、再生、編集など操作はできません。（☞ 20 ページ「音声ファイルを編集する」）
- ハードディスク、リムーバブルディスクでのフォルダー数制限は 001 ～ 999、VM1 音声ファイル数制限は 001 ～ 999 です。
- SD オーディオプレーヤーには、時計機能がありません。
このため、SD オーディオプレーヤーで録音した VM1 音声ファイルの録音日時は表示されません。
録音した記録が必要な場合、録音日時の設定または変更ができます。（☞ 39 ページ「録音日時を変更する」）
- VM1 音声ファイルで使用できる機能については、各説明項目のタイトル右に V マークをつけています。

起動する

❶ Windows を起動する

❷ SD オーディオプレーヤーとパソコンを USB ケーブルで接続する

お知らせ

接続方法については、SD オーディオプレーヤー本体の取扱説明書をご覧ください。

〈起動画面〉

❸ デスクトップの Voice Editing アイコンをダブルクリックする

Voice Editing が起動し、初期画面が表示された後、〈メイン画面〉が表示されます。

お知らせ

デスクトップにアイコンが表示されていない場合「スタート」メニューから［すべてのプログラム（または「プログラム」)］→［Panasonic］→［Voice Editing］→［Voice Editing］を順に選びます。

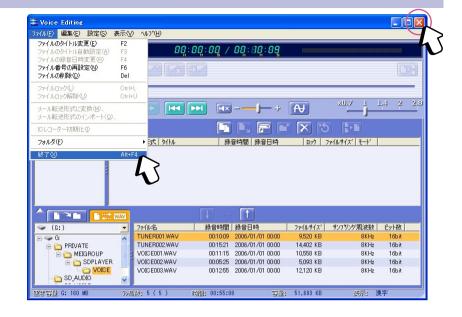
〈メイン画面〉

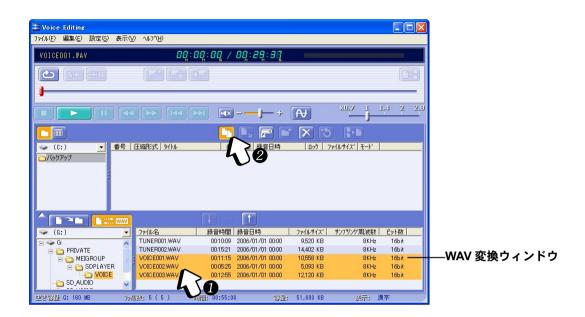
お知らせ

- SD メモリーカードのドライブが「デフォルト・ドライブ」になります。
- 初回起動時には、下記のフォルダー内が下ウィンドウ（WAV 変換ウィンドウ）に表示されます。
  G：￥PRIVATE￥MEIGROUP￥SDPLAYER￥VOICE
  （SD メモリーカードのドライブが「G ドライブ」の場合）
  上記のフォルダーが存在しない場合、C ドライブのルートディレクトリーが「WAV 変換ウィンドウ」に表示されます。
- SD オーディオプレーヤーで録音した WAVE 音声ファイルの日付は、「2006/01/01 00:00」です。
- Windows の画面の設定が「特大フォント」になっていると、〈メイン画面〉の表示が上の通りにならないことがありますので「標準」フォントに変更することをお勧めします。（操作の方法は Windows の取扱説明書をご覧ください）

次ページへ続く

終了する

画面右上の☒を
クリックする
または
「ファイル」メニュー
から［終了］を選ぶ

WAVE 音声ファイルを保存する

D-snap Audio 内（SD メモリーカード内）の WAVE 音声ファイルをパソコンに保存します。

❶「WAV 変換ウィンドウ」でパソコンに保存したい WAVE 音声ファイルを選ぶ

■ 複数の音声ファイルを同時に選ぶには

- 連続する場合：最初の音声ファイルでクリック、[Shift]キーを押しながら最後の音声ファイルをクリックする
- 離れた位置の場合：[Ctrl]キーを押しながら音声ファイルをクリックする

❷ をクリックする

❸「WAV 変換ウィンドウ」のドライブボックスから保存したいパソコンのドライブを選ぶ

次ページへ続く ▶

❹ コピー先のフォルダーを選ぶ

❺ をクリックする

手順❶で選んだ WAVE 音声ファイルがパソコンにコピーされ、「WAV 変換ウィンドウ」に表示されます。

お知らせ

- SD オーディオプレーヤーで録音した WAVE 音声ファイルをパソコンに保存すると、ファイルの日付は保存した日付になります。
- 新しいフォルダーを作ることもできます。(☞ 46 ページ「新しいサブフォルダーの作成 / 削除」)
  WAVE 音声ファイルを保存するフォルダーは、ルートディレクトリーの直下など、分かりやすい位置に作成することをお勧めします。
- Windows のエクスプローラーを使っても、WAVE 音声ファイルのコピーができます。
  SD メモリーカード内のフォルダー構造については、「SD メモリーカード内のフォルダー構造(☞ 51 ページ)」を参照してください。

再生する

音声ファイルの再生

SD メモリーカード内やパソコンのハードディスクに保存した音声ファイルの再生ができます。

WAV 変換ウィンドウ

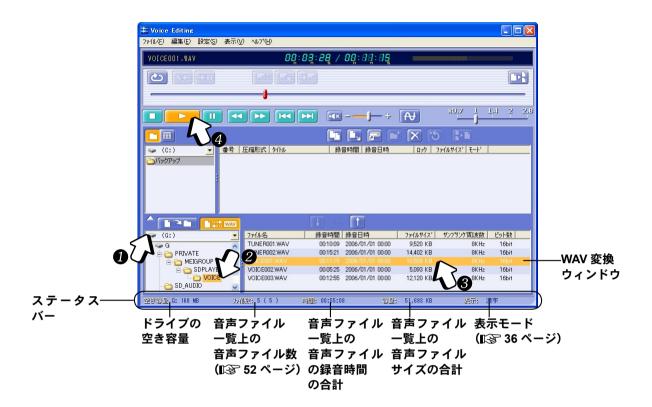
ステータスバー

ドライブの空き容量

音声ファイル一覧上の音声ファイル数（☞ 52 ページ）

音声ファイル一覧上の音声ファイルの録音時間の合計

音声ファイル一覧上の音声ファイルサイズの合計

表示モード（☞ 36 ページ）

❶「WAV 変換ウィンドウ」で SD オーディオプレーヤー本体のドライブ（SD メモリーカードのドライブ）を選ぶ

❷ フォルダーを選ぶ

❸ 再生する音声ファイルを選ぶ

❹ ▶ をクリックする

▶ に変わり、▮ が再生位置を示します。

次ページへ続く ▶

お知らせ

- 手順➊のとき、「WAV 変換ウィンドウ」が開いていない場合、下記の方法で開いてください。
  － をクリックする
  －「表示」メニューから［WAV 変換ウィンドウ表示］を選ぶ
- 複数の音声ファイルを選んでいる場合は音声ファイル一覧の上から順次再生されます。
  （☞ 10 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）
- VM1 音声ファイルに変換しても再生できます。（☞ 24 ページ「変換（転送）する」）
  ただし、VM1 音声ファイルは、Windows エクスプローラーでダブルクリックしても再生されません。
- SD オーディオプレーヤーで再生できない WAVE 音声ファイルは、「WAV 変換ウィンドウ」内では赤字で表示されます。

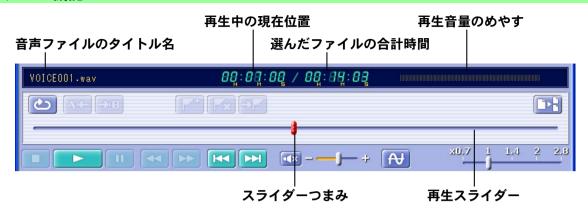
サンプリング周波数 8KHz/ ビット数 16bit の WAVE 音声ファイルでもファイル名が適切でない場合には、赤字で表示されます。
ファイル名を「VOICE +［連番 001 ～ 300］. wav」または、「TUNER +［連番 001 ～ 300］. wav」に変更すると、SD オーディオプレーヤーで再生できます。（☞ 37 ページ「音声ファイルやサブフォルダーのタイトルの変更」）

次ページへ続く ▶

ボタンの機能

停止

再生

一時停止（もう一度クリックするか、▶をクリックすると再生が始まります）

早戻し／早送り（再生中に押し続ける。離すと通常の再生に戻ります）

スキップ（前後の音声ファイルに移ります）

エフェクター：をクリックした後、右隣の上下矢印をクリックして音質を切り替えます。

音質調整の一覧

音質調整番号	効　果
1 ～ 3	高音域カット
4 , 5	低音域カット
6 ～ 8	高音域＋低音域カット
9 , 10	中音域カット

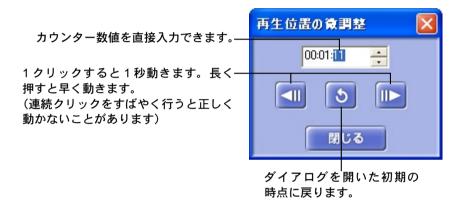
• 録音状態によっては効果のない場合があります。

消音（音声ミュート）（再度クリックすると、音が出ます）

音量調整

次ページへ続く ▶

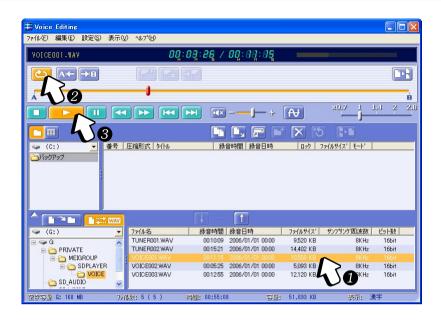
再生音量のめやす
モノラル録音の音声ファイルを選んでいる場合、左上の図のような再生音量を表示します。
ステレオ録音の音声ファイルを選んでいる場合、左右の再生音量を表示します。

スライダーつまみ
（右クリックし、[微調整ダイアログを表示] をクリックすると、下図の画面が開きます。）

お知らせ
24 時間を超える音声ファイルは、〈再生位置の微調整〉画面を開くことができません。

1 つの音声ファイルの繰り返し再生（リピート）

❶ 再生する音声ファイルを選ぶ

❷ をクリックする

に変わり、再生スライダーの表示がオレンジ色になります。
解除するにはもう一度クリックします。

❸ をクリックする

に変わり、繰り返し再生されます。
停止するにはをクリックします。

お知らせ

VM1 音声ファイルに変換しても再生できます。（☞ 24 ページ「変換（転送）する」）

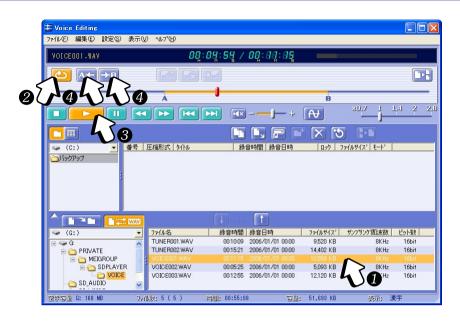
指定した 2 点間の繰り返し再生

❶ 再生する音声ファイルを選ぶ

❷ をクリックする

に変わり、再生スライダーの表示がオレンジ色になります。

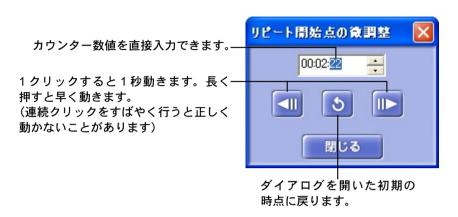
❸ をクリックする

に変わり、再生が始まります。

❹ が開始する位置に移動したら をクリックする／ が終了する位置に移動したら をクリックする

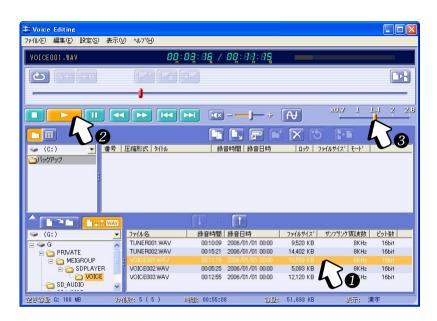
- 再生スライダーの A 点、B 点の間だけがオレンジ色に表示されます。
- を押すまで繰り返し再生されます。

次ページへ続く

お知らせ

- VM1 音声ファイルに変換しても再生できます。（☞ 24 ページ「変換（転送）する」）
- A を指定しなければ音声ファイルの先頭が開始点になり、B を指定しなければ音声ファイルの最後が終了点になります。
- ［A］と［B］をドラッグして動かすこともできます。
- ［A］、［B］を右クリックし、［微調整ダイアログを表示］をクリックすると位置の微調整ができます。

- 24 時間を超える音声ファイルは、〈リピート開始点の微調整〉画面を開くことができません。

再生スピードの調整

聞きたい位置を早く探すために早聞きしたいときや、メモの書き取りなどで遅くして聞きたいときに音声ファイルの再生スピードを変えることができます。

❶ 再生する音声ファイルを選ぶ

❷ ▶ をクリックする

▶ に変わり、再生が始まります。

❸ 再生速度調整つまみを目盛り位置にドラッグする

お知らせ

- VM1 音声ファイルに変換しても再生できます。（☞ 24 ページ「変換（転送）する」）
- 再生スピードを変更すると、再生される音声ファイルの音の高さがわずかに変わります。

音声ファイルを編集する

音声ファイルやサブフォルダーについて下記の編集ができます。

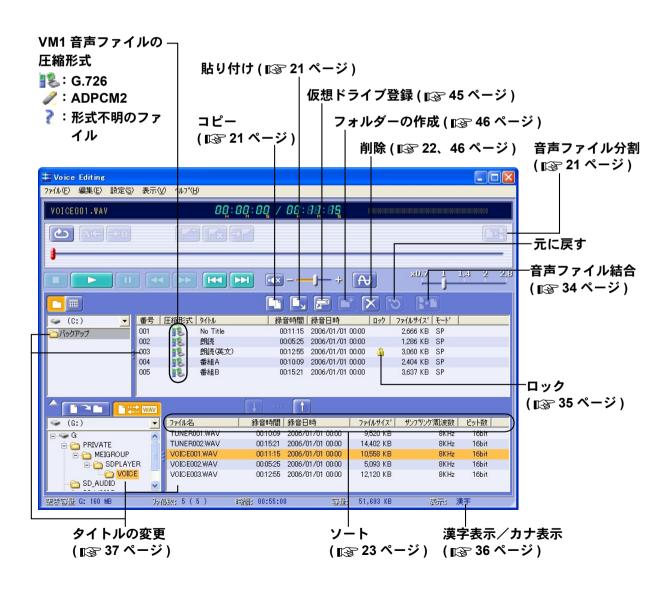
	WAVE 音声ファイル	フォルダー	VM1 音声ファイル	サブフォルダー
コピー／貼り付け	○	—	○	—
削　除	○	○	○	○
新規作成	—	○	—	○
ソート	○	—	○	—
タイトル変更	△※	○	○	○
結　合	×	—	○	—
分　割	○	—	○	—
ロック	×	—	○	—

※タイトルの自動設定と録音日時の変更はできません。

音声ファイルの分割

❶ で分割したい位置を決める

❷ をクリックする

確認の画面が表示されます。

❸［はい］ボタンをクリックする

- 分割された 2 個の音声ファイルが表示されます。
- 分割を実行しないときは［いいえ］ボタンをクリックしてください。
- 分割を実行直後に元に戻すには、をクリックしてください。

お知らせ

- 分割後の録音時間やファイルサイズの合計は、表示の精度により分割前の値と一致しないことがあります。
- 手順❷のとき、「編集」メニューから［音声ファイル分割］を選ぶこともできます。

コピー／貼り付け

音声ファイルをコピーし、他のサブフォルダーに貼り付けることもできます。

❶ 音声ファイルを選ぶ

❷ をクリックする

❸ サブフォルダーを選ぶ

❹ をクリックする

コピーした音声ファイルが貼り付けられます。

お知らせ

- とをクリックする他に、下記の方法でも音声ファイルのコピー / 貼り付けができます。
  － 右クリックで表示されるメニューから［コピー］または［貼り付け］を選ぶ
  －「編集」メニューから［コピー］または［貼り付け］を選ぶ
- 上のウィンドウでコピーした音声ファイルを下のウィンドウのサブフォルダーへ貼り付けることもできます。

音声ファイルの削除

❶ 削除したい音声ファイルを選ぶ

（☞ 10 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）

❷ をクリックする

確認の画面が表示されます。

❸ [はい］ボタンをクリックする

削除を行わないときは［いいえ］ボタンをクリックしてください。

お知らせ

- ロックされた音声ファイルの削除はできません。ロックを解除してください。
- をクリックする他に、下記の方法でも音声ファイルの削除ができます。
  – キーボードの［Delete］キーを押す
  – 右クリックで表示されるメニューから［ファイルの削除］を選ぶ
  –「ファイル」メニューから［ファイルの削除］を選ぶ

音声ファイルのソート

音声ファイル一覧の項目をクリックする

- 音声ファイルが、下表に従ってソート（並べ替え）されます。

項　目	備　考
ステレオ	モノラル、ステレオの順
ファイル名	
録音時間	
録音日時	
ファイルサイズ	
サンプリング周波数	
ビット数	
圧縮形式	G.726、ADPCM2 の順
タイトル	数字、アルファベット、50 音順、漢字コード順
ロック	ロックがかかっている、かかっていない順
モード	HQ、SP、LP 順
フォルダータイトル	カレンダー機能時：数字、アルファベット、50 音順、漢字コード順

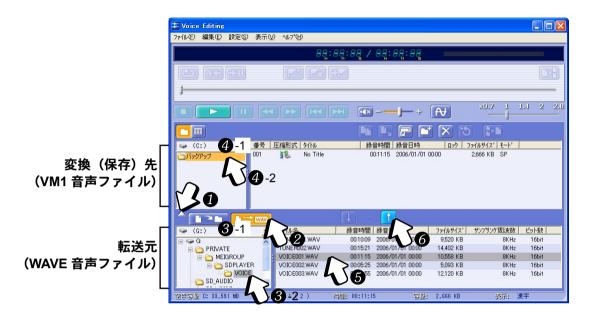
- もう一度同じボタンをクリックすると現在の順番と逆の順番にソートされます。

お知らせ

次の場合はソートできません。
- CD-R
- ロックされたメディア

変換（転送）する

WAVE 音声ファイルを VM1 形式に変換して、パソコンに転送することができます。
逆に、VM1 音声ファイルを WAVE 形式に変換してパソコンに転送することもできます。

WAVE → VM1 形式に変換

❶ をクリックする

に変わり、下のウィンドウが開きます。

❷ をクリックする

❸ 下の「WAVE 変換ウィンドウ」でドライブとフォルダーを選ぶ

❹ 上ウィンドウで変換（保存）先のドライブとサブフォルダーを選ぶ

選んだドライブの空き容量がステータスバーに表示されます。

❺ 変換したい WAVE 音声ファイルを選ぶ

（☞ 10 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）

次ページへ続く ▶

❻ をクリックする

下表と使用機器選択で設定された内容に従って自動的に変換されます。（☞ 49 ページ）

WAVE 形式（サンプリング周波数）	変 換	VM1 形式	圧縮形式
8 / 11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	SP モード	G.726
6.4 kHz	▶	LP モード	ADPCM2
8 kHz	▶	SP モード	
11.025 / 16 / 22.05 / 44.1 kHz	▶	HQ モード	

上のウィンドウに変換（転送）された VM1 音声ファイルが表示されます。

■ 複数の機器を選んでいる場合

(☞ 49 ページ「使用機器の選択」)

手順❻の後、右図のような〈音声圧縮形式の選択〉画面が表示されます。

お使いの機器（圧縮形式）を選んでください。

■ 変換（転送）後のタイトル

VM1 音声ファイルのタイトルは、転送元のフォルダーによって変わります。

• SD オーディオプレーヤー本体 (下記のフォルダー内) を転送元に選んだ場合

G：¥ PRIVATE ¥ MEIGROUP ¥ SDPLAYER ¥ VOICE

（SD メモリーカードのドライブが「G ドライブ」の場合）

- 漢字表示のタイトル：No Title
- カナ表示のタイトル：WAVE 音声ファイルのファイル名

• 上記以外のフォルダーを転送元に選んだ場合

- 漢字表示のタイトル：WAVE 音声ファイルのファイル名
- カナ表示のタイトル：FromWAV_［録音時間］_［サンプリング周波数］_［ビット数］

漢字表示、カナ表示については、「タイトルの表示」を参照してください。（☞ 36 ページ）

次ページへ続く ▶

変換（転送）する

お知らせ

- 変換（転送）中は、SD メモリーカードなどのリムーバブルメディアの取り付け／取り外しは、絶対にしないでください。
- 音声ファイルの選択状態を反転する場合、「編集」メニューから［選択の切り替え］を選びます。
- SD オーディオプレーヤーで録音した WAVE 音声ファイル以外の WAVE 音声ファイルの変換（転送）もできます。ただし、ステレオ録音した WAVE 音声ファイルは、モノラルに変換されます。WAVE 音声ファイルに変換しても元のステレオには戻りません。
- 手順❹で選んだ C ドライブ以外のドライブに「SD_VOICE」フォルダーやサブフォルダーがない場合は、「SD_VOICE」フォルダーと 4 つのサブフォルダーが作成されます。（☞ 52 ページ「ハードディスク内のフォルダー構造」）
  仮想ドライブを選択した場合は 1 つのサブフォルダーが作成されます。（☞ 45 ページ「ドライブ・フォルダーを使う」）
- VM1 音声ファイルとサブフォルダーは一定の形式、名前、構造で保存されます。(☞ 52 ページ「ハードディスク内のフォルダー構造」)
- 変換（転送）した音声ファイルの内容がわかるようにタイトルの変更ができます。（☞ 36 ページ「タイトルを編集する」）
- VM1 音声ファイルに変換すると、録音日時の設定または変更ができます。（☞ 39 ページ「録音日時を変更する」）
- 空き容量表示に余裕がある場合でも、管理ファイルが一部専有するためや、変換時に一時領域を使用するために、変換できないことがあります。

VM1 → WAVE 形式に変換

❶ をクリックする

に変わり、下のウィンドウが開きます。

❷ をクリックする

❸ 上ウィンドウで転送元のドライブとサブフォルダーを選ぶ

❹ 下の「WAV 変換ウィンドウ」で変換（保存）先のドライブとフォルダーを選ぶ

❺ 変換したい VM1 音声ファイルを選ぶ

（☞ 10 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）

❻ をクリックする

「WAV 変換ウィンドウ」に変換（転送）した WAVE 音声ファイルが表示されます。

次ページへ続く ▶

■ 変換（転送）後のファイル形式

WAVE 保存形式は、変換（転送）先のフォルダーによって変わります。

- SD オーディオプレーヤー本体（下記のフォルダー内）を変換（転送）先に選んだ場合

  G：¥ PRIVATE ¥ MEIGROUP ¥ SDPLAYER ¥ VOICE
  （SD メモリーカードのドライブが「G ドライブ」の場合）

  WAVE 保存形式は、自動的にサンプリング周波数 8 KHz/ ビット数 16bit に変換されます。

- 上記以外のフォルダーを変換（転送）先に選んだ場合、手順❻のとき、〈WAVE 形式に変換〉画面が表示されます。
  録音モードに対応した WAVE 保存形式を選び、［OK］をクリックしてください。

VM1 形式	変 換	WAVE 形式
HQ モード	▶	8 kHz/16 bit、11 kHz/16 bit、16 kHz/16 bit 、22 kHz/16 bit のいずれか
SP モード	▶	11 kHz/16 bit または 8 kHz/16 bit
LP モード	▶	8 kHz/16 bit

■ 変換（転送）後のファイル名

WAVE 音声ファイルのファイル名は、変換（転送）先のフォルダーによって変わります。

- SD オーディオプレーヤー本体（下記のフォルダー内）を変換（転送）先に選んだ場合

  G：¥ PRIVATE ¥ MEIGROUP ¥ SDPLAYER ¥ VOICE
  （SD メモリーカードのドライブが「G ドライブ」の場合）

  ファイル名は下記の通りになります。

  VOICE + ［連番 001 ～ 300］ . wav
  （VOICE + ［連番 001 ～ 300］：ファイル名、wav：拡張子）

  ［連番 001 ～ 300］は、番号の振り直しができます。
  ソート機能（☞ 23 ページ）で SD メモリーカード内の音声ファイルの並びを変更し、「ファイル」メニューから［ファイル番号の再設定］を選びます。
  番号の振り直しができる WAVE 音声ファイルは下記の通りです。
  - VOICE + ［連番 001 ～ 300］.wav
  - TUNER + ［連番 001 ～ 300］.wav

  SD オーディオプレーヤーで再生できる WAVE 音声ファイルは、「VOICE ＋［連番 001 ～ 300］.wav」で 300 個、「TUNER ＋［連番 001 ～ 300］.wav」で 300 個、合計 600 個の再生ができます。
  ［連番 001 ～ 300］の値が 301 を超えると、「WAV 変換ウィンドウ」内では赤字で表示されます。また、SD オーディオプレーヤーでは認識しません。

- 上記以外のフォルダーを変換（転送）先に選んだ場合、ファイル名は下記の通りになります。

  ［番号］＋［カナ表示のタイトル名］＋［録音日時］ . wav
  （［番号］＋［カナ表示のタイトル名］＋［録音日時］：ファイル名、wav：拡張子）

お知らせ

- タイトル名に「\/:.;*?” <> ｜」が含まれる場合は自動的に「_」に置き換わります。
- 複数の音声ファイルを変換する場合、上記のタイトル名で自動的に変換されます。

次ページへ続く ▶

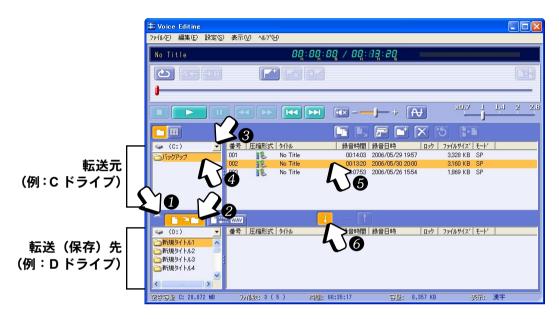
お知らせ

- 空き容量表示に余裕がある場合でも、管理ファイルが一部専有するためや、変換時に一時領域を使用するために、変換できない場合があります。
- WAVE 音声ファイルに変換する場合は変換（転送）先を「SD_VOICE」フォルダー以外の場所に指定してください。
- ハードディスクの空き容量が少ないと、VM1 音声ファイルを WAVE 音声ファイルへ変換できません。
  「一時領域の指定（☞ 50 ページ）」で空き容量の多いハードディスクを指定するか、「音声ファイルの分割（☞ 21 ページ）」機能でファイル容量が小さくなるように分割してください。
- VM1 音声ファイルから WAVE 音声ファイルに変換すると、ファイルの日付は変換した日付になります。
- FAT16 のファイルシステムでお使いの場合、ファイルシステムの制限で 2.1G バイト以上の WAVE 音声ファイルが扱えません。長時間録音した VM1 音声ファイルを WAVE 音声ファイルへ変換する場合、変換した後の WAVE 音声ファイルが 2.1G バイト以内に収まるように「音声ファイルの分割（☞ 21 ページ）」機能で分割してください。

転送（保存）する

ハードディスク、SD メモリーカード内の VM1 音声ファイルを、他のドライブ、サブフォルダーへ転送（保存）することができます。
複数のハードディスクドライブがある場合は、別のハードディスクドライブにも転送（保存）できます。

お知らせ

使用機器設定で、複数の機器を選んだ場合、転送（保存）時に圧縮形式を変換することができますが、圧縮形式を変換せずに転送（保存）することをお勧めします。（☞ 49 ページ「使用機器の選択」）

❶ をクリックする

に変わり、下のウィンドウが開きます。

❷ をクリックする

❸ 上のウィンドウで転送元のドライブとサブフォルダーを選ぶ

❹ 下ウィンドウで転送（保存）先のドライブとサブフォルダーを選ぶ

❺ 転送（保存）したい VM1 音声ファイルを選ぶ

❻ をクリックする

転送先に VM1 音声ファイルが追加表示されます。
転送元の VM1 音声ファイルは、そのまま残ります。

次ページへ続く ▶

お知らせ

- 選んだドライブに「SD_VOICE」フォルダーやサブフォルダーがない場合は、「SD_VOICE」フォルダーと 4 つのサブフォルダーが作成されます。仮想ドライブを選択した場合は 1 つのサブフォルダーが作成されます。
- 空き容量表示に余裕がある場合でも、管理ファイルが一部専有するためや、転送時に一時領域を使用するために、転送（保存）ができないことがあります。
- 転送（保存）するときに音声圧縮形式を変更する場合、一時的にファイルを作成します。
  圧縮形式によっては一時的なファイルが大きくなる場合があります。
  その場合、［オプション］で空き容量が多いハードディスクの指定ができます。（☞ 50 ページ「オプションの設定」）

VM1 音声ファイルを再生する

インデックス機能

お知らせ

この機能は、WAVE 音声ファイルでは使えません。
VM1 音声ファイルに変換すると使えます。(☞ 24 ページ「変換（転送）する」)

VM1 音声ファイルに、の付加（最大 16 カ所）、削除ができます。
を付けると、すばやく聞きたい位置から聞くことができます。

お知らせ

SD メモリーカードに転送（保存）すると、の情報は保存されます。

インデックスの付加

❶ VM1 音声ファイルを再生する

❷ 付加する点でをクリックする

が付きます。

インデックスの削除

❶ をクリックする

❷ をクリックする

- が解除されます。
- 複数のがあるときは、続けてをクリックするとより左側が連続して解除できます。

インデックスを付けた位置からの再生

❶ VM1 音声ファイルを再生する

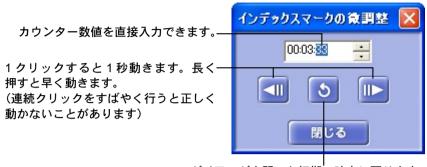
❷ をクリックする

がまで飛びます。

次ページへ続く

VM1 音声ファイルを再生する

お知らせ

- VM1 音声ファイルを結合、分割するとは解除されます。
- の間隔は、最短 1 秒です。
- を右クリックし、［微調整ダイアログを表示］をクリックすると位置の微調整ができます。

- 24 時間を超える音声ファイルは、〈インデックスマークの微調整〉画面を開くことができません。

VM1 音声ファイルを編集する

音声ファイルの結合

2 つの VM1 音声ファイルをつなげて 1 つのファイルにすることができます。

お知らせ

- この機能は、WAVE 音声ファイルでは使えません。
  VM1 音声ファイルに変換すると使えます。（☞ 24 ページ「変換（転送）する」）
- 同じ圧縮形式、同じモードに限り結合ができます。
- VM1 音声ファイルを結合しているときには、SD オーディオプレーヤーの取り付け／取り外しは、絶対にしないでください。

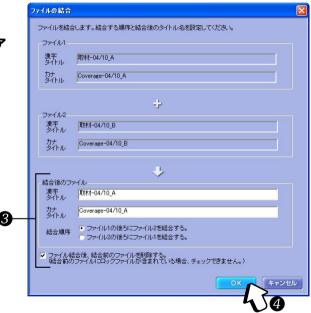
❶ つなげたい VM1 音声ファイルを選ぶ

Ctrl キーを押しながら VM1 音声ファイルをクリックすると、2 つの VM1 音声ファイルが選べます。

❷ をクリックする

〈ファイルの結合〉画面が表示されます。

❸ 結合後のタイトル、順序、結合前のファイルの削除を設定する

❹ OK をクリックする

お知らせ

- 手順❷のとき、「編集」メニューから［音声ファイル結合］を選ぶこともできます。
- ロックされている VM1 音声ファイルもファイル結合ができます。
  ロックされている VM1 音声ファイルは、結合後に削除することはできません。

音声ファイルのロック

大切な VM1 音声ファイルを消してしまったり、編集したりできないようにすることができます。

お知らせ

この機能は、WAVE 音声ファイルでは使えません。
VM1 音声ファイルに変換すると使えます。（☞ 24 ページ「変換（転送）する」）

❶ ロックする VM1 音声ファイルを選ぶ

❷「ファイル」メニューから［ファイルロック］を選ぶ

- VM1 音声ファイル一覧でロックした VM1 音声ファイルに がつきます。
- 「ファイル」メニューから［ファイルロック解除］を選ぶとロックを解除することができます。

お知らせ

手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［ファイルロック］または［ファイルロック解除］を選ぶこともできます。

タイトルの表示

お知らせ

この機能は、WAVE 音声ファイルでは使えません。
VM1 音声ファイルに変換すると使えます。（☞ 24 ページ「変換（転送）する」）

サブフォルダーおよび VM1 音声ファイルのタイトルは、漢字表示とカナ表示を切り替えて入力できます。

漢字表示：「表示」メニューから［漢字表示］を選ぶ

カナ表示：「表示」メニューから［カナ表示］を選ぶ

漢字表示／カナ表示

- 最大入力文字　VM1 音声ファイル：全角で 100 文字（半角で 200 文字）
  ただし全角と半角の文字数の合計は、半角に換算して 250 文字までです。（全角 1 文字を半角 2 文字と数えます）
  サブフォルダー：全角で 16 文字（半角で 32 文字）
- 扱える文字　漢字表示（全角、半角カナ、英数字）：JIS 第 1 水 準、JIS 第 2 水 準（Shift JIS)、JISX0201
  カナ表示（半角カナ、英数字）：JISX0201

お知らせ

- VM1 音声ファイルのタイトルまたはフォルダータイトルは、Voice Editing での表示専用です。
  Windows のエクスプローラーでのファイル名、フォルダー名とは異なりますのでご注意ください。
- VM1 音声ファイルに変換すると、録音日時の設定または変更ができます。（☞ 39 ページ「録音日時を変更する」）
- 携帯電話で録音した VM1 音声ファイルは、カナ表示モードでタイトルは表示されません。

音声ファイルやサブフォルダーのタイトルの変更

❶ **タイトルを変更したい音声ファイルまたはサブフォルダーを選ぶ**

❷ **「ファイル」メニューから［ファイルのタイトル変更］を選ぶ**

または［フォルダ］→［フォルダのタイトル変更］をクリックする

タイトル部分が入力できる状態になります。

❸ **新しいタイトルを入力する**

（☞ 36 ページ「タイトルの表示」）

❹ **パソコンの Enter を押す**

お知らせ

- 手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［ファイルのタイトル変更］や［フォルダのタイトル変更］を選ぶこともできます。
- SD オーディオプレーヤーで再生する場合、SD メモリーカード内の WAVE 音声ファイルの名前を下記のようにしてください。
  - VOICE +［連番 001 ～ 300］.wav
  - TUNER +［連番 001 ～ 300］.wav

タイトルを自動的に設定する

お知らせ

この機能は、WAVE 音声ファイルでは使えません。
VM1 音声ファイルに変換すると使えます。(☞ 24 ページ「変換(転送)する」)

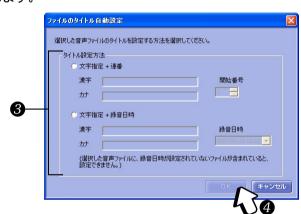
❶ タイトルを変更したい VM1 音声ファイルを選ぶ

❷「ファイル」メニューから[ファイルのタイトル自動設定]を選ぶ

〈ファイルのタイトル自動設定〉画面が表示されます。

❸ 設定するタイトルの種類を選ぶ

設定できるタイトルの種類は以下の通りです。

- 「文字指定+連番」
  指定した文字列に順番に番号をつけてタイトルにします。
- 「文字指定+録音日時」
  指定した文字列と VM1 音声ファイルの録音日時を組み合わせてタイトルにします。
  VM1 音声ファイルを複数選択した場合、「録音日時」プルダウンリストで確認ができます。

❹ OK をクリックする

お知らせ

- 手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから[ファイルのタイトル自動設定]を選ぶこともできます。
- 「文字指定+連番」と「文字指定+録音日時」の文字入力欄は、全角文字で 25 文字まで、半角文字で 50 文字まで入力できます。
- 「文字指定+録音日時」の「録音日時」プルダウンリストでは、録音日時の確認ができます。
  録音日時の変更はできません。
- VM1 音声ファイルに録音した日時が記録されていない場合、「文字指定+録音日時」は設定できません。
  録音日時の変更については、「録音日時を変更する(☞ 39 ページ)」を参照してください。

録音日時を変更する

お知らせ

この機能は、WAVE 音声ファイルでは使えません。
VM1 音声ファイルに変換すると使えます。(☞ 24 ページ「変換（転送）する」)

機器によっては、VM1 音声ファイルを録音した日時が記録されない場合があります。録音した記録として日時を付けることができます。
また、VM1 音声ファイルを整理する都合上、実際に録音した日時と異なる日時をつけたい場合にも利用できます。

お知らせ

録音日時の変更は Voice Editing の音声ファイル一覧に表示される「録音日時」を変更します。ファイル本体の日時の変更はできません。

❶ 録音日時を変更したい VM1 音声ファイルを選ぶ

❷「ファイル」メニューから［ファイルの録音日時変更］を選ぶ

確認画面が表示されます。

❸ OK をクリックする

〈録音日時の変更〉画面が表示されます。

❹ 録音日時を変更し、OK をクリックする

選択した VM1 音声ファイルの録音日時が変更されます。

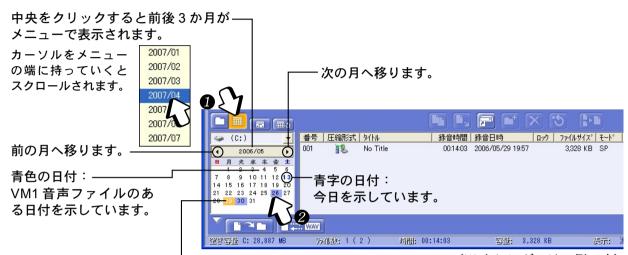
お知らせ

- 手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［ファイルの録音日時変更］を選ぶこともできます。
- 録音日時がある VM1 音声ファイルを選択している場合、確認の画面が表示されます。

カレンダー機能で検索する

お知らせ

この機能は、WAVE 音声ファイルでは使えません。
VM1 音声ファイルに変換すると使えます。（☞ 24 ページ「変換（転送）する」）

録音日付をたよりに、カレンダー機能を使って VM1 音声ファイルを検索します。

（※ カレンダーは一例です）

オレンジ色の日付：
選んでいる VM1 音声ファイルの日付を示しています。

❶ をクリックする

録音した VM1 音声ファイルのある日付が青色で表示されます。

❷ 青色の日付をクリックする

- 日付がオレンジ色に変わり、VM1 音声ファイルが右側の音声ファイル一覧に表示されます。
- 複数の日付を選ぶと、VM1 音声ファイルが日付順に並んで表示されます。

■その月のすべての VM1 音声ファイルを表示させるには

をクリックする

日付順に並べられて表示されます。

■選択を解除するには

オレンジ色の日付をクリックする

音声ファイル一覧から VM1 音声ファイルが表示されなくなります。

■全ての選択を解除するには

をクリックする

全ての選択が解除され、音声ファイル一覧から VM1 音声ファイルが表示されなくなります。

次ページへ続く ▶

カレンダー機能で検索する

お知らせ

- カレンダー上の右クリックで VM1 音声ファイルが存在する日付に移動できます。移動した先の VM1 音声ファイルが音声ファイル一覧に追加表示されます。
-「表示」メニューから［カレンダー表示］を選んでも切り替わります。
- 以下の方法でフォルダー表示に戻ります。
  －をクリックする
  －「表示」メニューから［フォルダ表示］を選ぶ

E メールに VM1 音声ファイルを添付する

お知らせ

この機能は、WAVE 音声ファイルでは使えません。
VM1 音声ファイルに変換すると使えます。（☞ 24 ページ「変換（転送）する」）

E メールを送付する相手が Voice Editing を持っていない場合、再生専用の Voice Editing Mini Player を添付できます。

音声ファイルの添付・送付

❶ **送付する VM1 音声ファイルを選ぶ**

複数の VM1 音声ファイルを選ぶこともできます。
（☞ 10 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）

❷ **「ファイル」メニューから［メール転送形式に変換］を選ぶ**

〈メール転送形式に保存〉画面が表示されます。

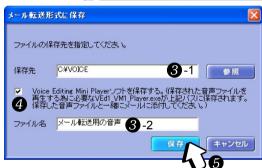
❸ **保存先とファイル名を入力する**

ファイル名に「\/:.;*?"<> ｜」が含まれる場合は自動的に「_」に置き換わります。

❹ **「Voice Editing Mini Player ソフトを保存する。」に「✔」を入れる**

❺ **［保存］ボタンをクリックする**

指定した保存先に Voice Editing Mini Player「VEd1_VM1_Player.exe」と、❸で付けた名称の VM1 メール転送形式ファイル「＊ .pvc」が保存され、エクスプローラー画面が表示されます。

❻ **お使いの E メールソフトを使って、「VEd1_VM1_Player.exe」と VM1 メール転送形式ファイル「＊ .pvc」を添付して送付する**

お知らせ

- 手順❷のとき、右クリックで表示されるメニューから［メール転送形式に変換］を選ぶこともできます。
- 2 回目以降は「VEd1_VM1_Player.exe」を添付して送付する必要はありません。VM1 メール転送形式ファイル「＊ .pvc」のみを添付・送付してください。

次ページへ続く ▶

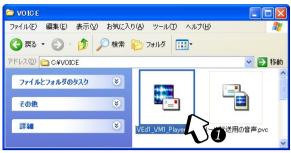
受け取った音声ファイルの再生

❶ 受け取って、パソコンに保存した「VEd1_VM1_Player.exe」をダブルクリックする

Voice Editing Mini Player が解凍、保存され、〈ヘルプ〉画面が表示されます。
「VEd1_VM1_Player.exe」と同じフォルダーに「VM1_Player」フォルダーが作成されます。

❷「VM1_Player」内の「VEd1_VM1_Player.exe」をダブルクリックする

Voice Editing Mini Player が起動します。

❸ VM1 メール転送形式ファイル「＊ .pvc」を Voice Editing Mini Player 上にドラッグ＆ドロップする

❹ Voice Editing Mini Player の ▶ をクリックする

VM1 音声ファイルが再生されます。

お知らせ

- 手順❸のとき、Voice Editing Mini Player を右クリックして表示されるメニューから［メール転送形式のインポート］を選ぶこともできます。
- 以前のバージョンで作成した VM1 メール転送形式ファイル「＊ .pvc」を Voice Editing Mini Player で再生できます。
- VM1 メール転送形式ファイル「＊ .pvc」は Voice Editing Ver.1.0 でも再生できます。
  再生には下記の方法があります。
  － VM1 メール転送形式ファイル「＊ .pvc」を Voice Editing Ver.1.0 の音声ファイル一覧にドラッグ＆ドロップする
  － 右クリックで表示されるメニューから［メール転送形式のインポート］を選ぶ
  －「ファイル」メニューから［メール転送形式のインポート］を選ぶ

スキン（小画面）を使う

限られた機能だけを使うときはスキン（小画面）を使うと便利です。

「表示」メニューの[スキン]から、好みのスキンを選ぶ

■ Panasonic_Std

■ Panasonic_Slim　■ Panasonic_Cellular

■ 通常画面に戻るには

スキンの上の□をクリックする

お知らせ

スキン（小画面）の情報表示部分にマウスカーソルを重ねると、音声ファイルのタイトルが表示されます。

仮想ドライブの作成

各々のドライブのルートディレクトリー（最上位階層）にある「SD_VOICE」フォルダー以外に、好みの階層に「SD_VOICE」フォルダーを新規作成して仮想ドライブとして使用できます。

お知らせ

この機能は、WAVE 音声ファイルでは使えません。
VM1 音声ファイルに変換すると使えます。（☞ 24 ページ「変換（転送）する」）

❶ をクリックする

に変わり、〈仮想ドライブ登録〉画面が表示されます。

❷［新規作成］ボタンをクリックする

〈仮想ドライブの作成〉画面が表示されます。

❸ 仮想ドライブ名、パス（フォルダー作成先）を入力し、［設定］ボタンをクリックする

- パスは画面下段の一覧からフォルダーを選択しても指定できます。
- 〈仮想ドライブ登録〉画面に戻ります。

❹［閉じる］ボタンをクリックする

仮想ドライブが作成され、ドライブボックスで新規のドライブとして選べます。

お知らせ

- をクリックする他に、「設定」メニューから［仮想ドライブ登録］を選ぶこともできます。
- 複数の仮想ドライブを作成した場合、〈仮想ドライブ登録〉画面内で使わない仮想ドライブの「✔」を外すと、一時的に非表示にできます。
- 仮想ドライブはドライブボックスのプルダウンリストから選べます。

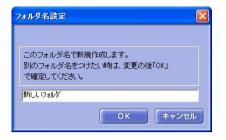
新しいサブフォルダーの作成／削除

新しいサブフォルダーの作成

❶ をクリックする

〈タイトル設定〉画面が表示されます。

❷ サブフォルダーのタイトルを入力し、をクリックする

ドライブボックスに新しいサブフォルダーが追加されます。

お知らせ

- をクリックする他に、右クリックで表示されるメニューから［フォルダの作成］を選ぶこともできます。
- VM1 音声ファイルを表示しているウィンドウのサブフォルダーを作成する場合、漢字表示のフォルダータイトルとカナ表示のフォルダータイトルを入力してください。
- 「PRIVATE」フォルダー内では、フォルダーの作成はできません。（☞ 51 ページ「フォルダーと音声ファイル」）

サブフォルダーの削除

❶ 削除したいサブフォルダーを選び、をクリックする

確認の画面が表示されます。

❷ ［はい］ボタンをクリックする

削除を行わないときは［いいえ］ボタンをクリックしてください。

お知らせ

- をクリックする他に、右クリックで表示されるメニューから［フォルダの削除］を選ぶこともできます。
- フォルダーを削除すると、フォルダー内のファイルもすべて削除されます。
  削除したくないファイルが残っていないか、確認してからファイルを削除してください。
- ロックされた VM1 音声ファイルを含むサブフォルダーの削除はできません。
- 「PRIVATE」フォルダー内では、フォルダーの削除はできません。（☞ 51 ページ「フォルダーと音声ファイル」）

表示設定

画面の幅を変更する

❶ **ポインターを変更したい境界線上に移動する**

「◀━▶」マークに切り替わります。

❷ **任意の幅にドラッグする**

お知らせ

- 音声ファイル一覧の項目の幅を縮めると非表示にできます。
  再表示については、「表示項目設定（☞ 次項）」を参照してください。
- 音声ファイル一覧の項目をドラッグすると、位置の移動ができます。

表示項目設定

音声ファイル一覧に表示される項目の変更ができます。一覧ごとに表示する項目の設定ができます。

❶ **［設定］メニューから［下窓 WAV ファイル表示項目設定］を選ぶ**

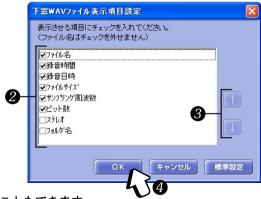
〈下窓 WAV ファイル表示項目設定〉画面が表示されます。

❷ **表示する項目に「✔」を入れる**

「ファイル名」、「タイトル」の「✔」は外せません。

❸ **表示する項目を反転表示させ↑、↓で順番を変える**

❹ **OK をクリックする**

表示項目が変更されます。

お知らせ

- 右クリックで表示されるメニューから［表示項目設定］を選ぶこともできます。
- 〈表示項目設定〉画面の［標準設定］ボタンをクリックすると初期状態に戻ります。
- 上のウィンドウ、下のウィンドウ、「WAV 変換ウィンドウ」別に表示項目の設定ができます。
- 音声ファイル一覧の項目をドラッグしても、項目位置の移動や非表示にすることもできます。

表示言語を切り替える

Voice Editing を起動したまま、表示言語の切り替えができます。

1 「表示」メニューから［表示言語］を選ぶ

切り替えられる言語が表示されます。

2 切り替えたい言語を選ぶ

確認の画面が表示されます。

3 ［はい］ボタンをクリックする

表示言語が切り替わり、再度確認の画面が表示されます。

4 OK をクリックする

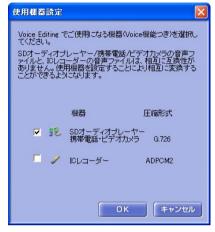
表示言語が切り替わります。
［元に戻す］ボタンをクリックすると元の表示言語に戻ります。

使用機器の選択

VM1 音声ファイルには、G.726 と ADPCM2 の圧縮形式があります。

圧縮形式	主な機器
G.726	SD オーディオプレーヤー、携帯電話、ビデオカメラなど
ADPCM2	IC レコーダー

G.726 と ADPCM2 には互換性がありません。それぞれの圧縮形式の VM1 音声ファイルを使用できる機器を設定することにより相互に変換できるようになります。

「設定」メニューから［使用機器設定］を選ぶと、〈使用機器設定〉画面が表示されます。
使用する機器（圧縮形式）にチェックマークを付けます。

VM1 音声ファイルを転送（保存）するとき、複数の機器（圧縮形式）を選んでいる場合には、〈音声圧縮形式の選択〉画面が表示されます。

オプションの設定

各機能で共通する設定を行います。
「設定」メニューから［オプション］を選ぶと、〈オプション〉画面が表示されます。
〈オプション〉画面では、以下の設定が行えます。

A 一時領域の指定

音声ファイルの変換や CD-R/RW にファイルを書き込むとき、一時ファイルを作成します。一時ファイルを作成するドライブ、フォルダーの指定ができます。

OK をクリックすると、オプションが設定されます。

オートアップデート

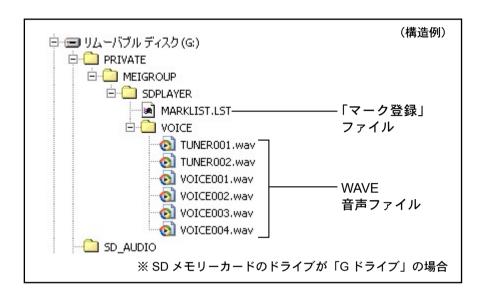
最新のシステムにアップデートできます。

「ヘルプ」メニューから［アップデート］を選ぶ

以降、画面の指示に従って操作してください。

フォルダーと音声ファイル

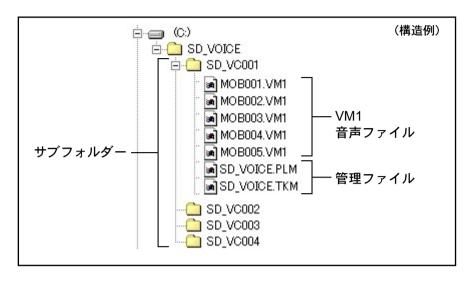
SD メモリーカード内のフォルダー構造

SD オーディオプレーヤーでボイス録音した WAVE 音声ファイルは、下記のフォルダーに保存されます。
G : ¥ PRIVATE ¥ MEIGROUP ¥ SDPLAYER ¥ VOICE

上記のフォルダーが存在する場合、Voice Editing Ver.1.0 の初回起動時の「WAV 変換ウィンドウ」には、このフォルダーの中が表示されます

お知らせ

- 「マーク登録」ファイルは、SD オーディオプレーヤーの「マーク登録」機能で使用します。不用意に削除しないでください。
  「マーク登録」ファイルについては、SD オーディオプレーヤー本体の取扱説明書をご覧ください。
- 「PRIVATE」フォルダー内では、フォルダーの作成／削除はしないでください。

ハードディスク内のフォルダー構造

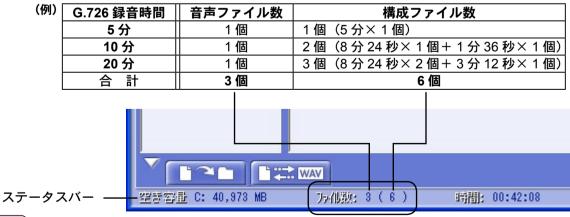
パソコンのハードディスク上では、初期設定で以下のようなフォルダー構造になっています。

お知らせ

- サブフォルダー、VM1音声ファイル、管理ファイルをエクスプローラー上で操作しないでください。VM1音声ファイルが壊れ、Voice Editing Ver.1.0が正常に動作しなくなります。
- これらのフォルダーおよびファイルはすべて隠しファイルの属性設定になっています。
- VM1音声ファイルを外部記憶装置にバックアップする場合、「SD_VOICE」フォルダーごとコピーしてください。

ファイル数

VM1音声ファイルのG.726（携帯電話、ビデオカメラで録音される音声ファイル）の場合、8分24秒ごとに分割されて保存されるため、8分24秒を越えるVM1音声ファイルがある場合は1フォルダーあたりの保存できるファイル数が999個より少なくなります。

（例）

G.726録音時間	音声ファイル数	構成ファイル数
5分	1個	1個（5分×1個）
10分	1個	2個（8分24秒×1個＋1分36秒×1個）
20分	1個	3個（8分24秒×2個＋3分12秒×1個）
合　計	3個	6個

お知らせ

ADPCM2（ICレコーダーで録音される音声ファイル）は、VM1音声ファイル数と構成ファイル数は同一です。

音声ファイルのバックアップ

CD-R 書き込みソフトウェアを使って、VM1 音声ファイルを CD-R/RW にバックアップする場合、以下の手順で操作をしてください。
以下の手順でバックアップを行うと、CD-R/RW 内の VM1 音声ファイルの再生ができます。

お知らせ

WAVE 音声ファイルのバックアップについては、「オーディオ形式の CD を作成する（☞ 56 ページ）」を参照してください。

音声ファイルを CD-R/RW に書き込む

❶ バックアップ用の仮想ドライブを作成する

たとえば「BACKUP」フォルダーを作成し、仮想ドライブ名を「保存データ」とします。

❷ バックアップ用の仮想ドライブにバックアップしたい VM1 音声ファイルを転送（保存）する

ドライブボックスのプルダウンリストから、手順❶で作成した仮想ドライブを選び、バックアップしたい VM1 音声ファイルを転送（保存）します。

お知らせ

ステータスバーで容量の確認ができます。
CD-R/RW の記録可能容量を超えないようにしてください。

次ページへ続く ▶

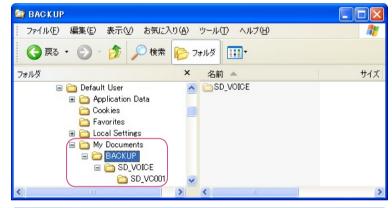
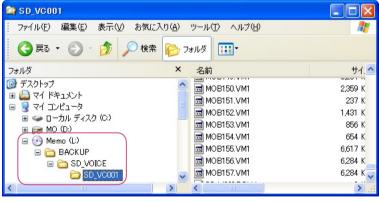
❸ 仮想ドライブと VM1 音声ファイルをエクスプローラーで確認する

エクスプローラーの「ツール」メニューから［フォルダオプション］を選びます。
［表示］タブをクリックし、「ファイルとフォルダの表示」の「すべてのファイルとフォルダを表示する」をクリックします。

［適用］ボタンをクリックし、［OK］ボタンをクリックします。
仮想ドライブがエクスプローラー上で確認できます。

❹ CD-R 書き込みソフトウェアを使用し、CD-R/RW へ仮想ドライブに指定したフォルダーを書き込む

手順❶で指定した仮想ドライブのフォルダー下を CD-R/RW に書き込みます。

CD-R/RW に書き込むと、このようなファイル構成になります。

お知らせ

CD-R 書き込みソフトウェアの操作については、CD-R 書き込みソフトウェアに付属の取扱説明書をご覧ください。

次ページへ続く

CD-R/RW の音声ファイルを再生する

❶ CD-R/RW を CD ドライブにセットし、CD-R/RW 用の仮想ドライブを作成する

たとえば、仮想ドライブ名を「CD-R」とし、CD-R/RW 内の「BACKUP」フォルダーを指定します。

❷ ドライブボックスのプルダウンリストから CD-R/RW 用の仮想ドライブを選ぶ

CD-R/RW 内の VM1 音声ファイルが音声ファイル一覧に表示されます。
VM1 音声ファイルを再生することもできます。

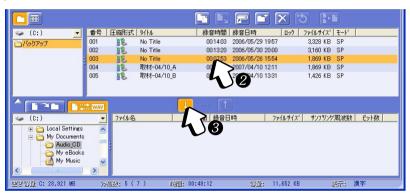
お知らせ

- CD-R/RW 内の VM1 音声ファイルには、下記の制限があります。
  - 並べ替えはできません。
  - VM1 音声ファイルの削除はできません。
  - VM1 音声ファイルの編集はできません。
- CD-R/RW 内の VM1 音声ファイルは、Voice Editing で再生できますが、CD-R/RW 単独では再生できません。CD-R/RW 単独で再生するためには、「オーディオ形式の CD を作成する（☞ 56 ページ）」を 参照してください。

オーディオ形式の CD を作成する

CD-R 書き込みソフトウェアを使って、オーディオ形式の CD を作成する場合、以下の手順で操作をしてください。
作成したオーディオ CD は、一般的な CD 付きオーディオ機器での再生ができます。

❶ CD-R 書き込みソフトウェアが 28 ページに記載されている WAVE 形式をサポートしているか確認する

❷ WAV 変換ウィンドウを開き、オーディオ形式の CD に書き込みたい VM1 音声ファイルを選ぶ

❸ [↓] をクリックする

〈WAVE 形式に変換〉画面が表示されます。

❹ 手順❶で確認した WAVE 形式を選び、[OK] をクリックする

選んだ VM1 音声ファイルが WAVE 音声ファイルに変換されます。

WAVE形式に変換
それぞれのモードについて、変換するWAVEファイルの形式を選択してください。
HQモード: WAVE保存形式 16KHz 16bit
SPモード: WAVE保存形式 8KHz 16bit
LPモード: WAVE保存形式 8KHz 16bit
ファイル名 002TUNER00120060526.wav
OK キャンセル
❹

お知らせ

ステータスバーで容量の確認ができます。
CD-R/RW の記録可能容量を超えないようにしてください。

❺ CD-R 書き込みソフトウェアを使用し、WAVE 音声ファイルを CD-R/RW へ書き込む

お知らせ

CD-R 書き込みソフトウェアの操作については、CD-R 書き込みソフトウェアに付属の取扱説明書をご覧ください。

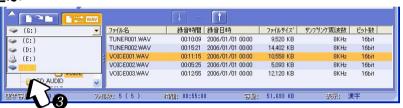
ボイスファイルの全消去

SD オーディオプレーヤーで再生できる WAVE 音声ファイルのみを消去します。

お知らせ
- SD オーディオプレーヤーで再生できないファイルは消去されません。
- 必要な WAVE 音声ファイルか確認してから、［Voice ファイルの全消去］を行ってください。

❶ SD オーディオプレーヤーとパソコンを USB ケーブルで接続する

❷「WAV 変換ウィンドウ」を開く

❸ ドライブボックスのプルダウンリストから、WAVE 音声ファイルの全消去を行うドライブ・フォルダーを選ぶ

❹「ファイル」メニューから［フォルダ］→［ボイスファイルの全消去］を選ぶ

確認の画面が表示されます。

❺［はい］ボタンをクリックする

手順❸で選んだドライブ・フォルダー内の SD オーディオプレーヤーで再生できる WAVE 音声ファイルがすべて消去されます。

IC レコーダーの初期化

Voice Editing を使って、IC レコーダーの初期化ができます。

ご注意

- IC レコーダーを初期化すると、ロックされている VM1 音声ファイルも消去されます。
- 必要な音声ファイルか確認してから、IC レコーダーを初期化してください。

1 IC レコーダーとパソコンを USB ケーブルで接続する

2 ドライブボックスのプルダウンリストから、IC レコーダーを選ぶ

3「ファイル」メニューから［IC レコーダー初期化］を選ぶ

確認の画面が表示されます。

4［はい］ボタンをクリックする

IC レコーダーの初期化が始まり、VM1 音声ファイルがすべて消去されます。

アンインストールする

❶「スタート」メニューから、「コントロールパネル」を選ぶ

❷「プログラムの追加と削除」をダブルクリックする

〈プログラムの追加と削除〉画面が表示されます。

❸ [プログラムの変更と削除] をクリックする

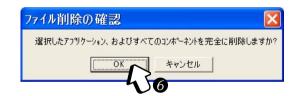
❹ [Voice Editing] をクリックし、[変更と削除] をクリックする

〈設定言語の選択〉画面が表示されます。

❺ [OK] ボタンをクリックする

〈ファイル削除の確認〉画面が表示されます。

❻ [OK] ボタンをクリックする

Voice Editing が削除されます。

お知らせ

- パソコン内の音声ファイルは、アンインストールを行っても削除されません。
- このソフトウェアを一度インストールした後、別のドライブまたはフォルダーに移動させる場合は、アンインストールしてから再度インストールを行ってください。

Q&A（よくあるご質問）

質問（Q）	回答（A）
Macintosh で使用できますか。	現在のところ対応の予定はありません。
このソフトウェアを、 アンインストールや 再インストールした場合、 保存したデータは残りますか。	残ります。ただし、安全のためにバックアップしておくことをお勧めします。
パソコンに転送（保存）したVM1 ファイルがみつかりませんが、どこに保存されているのですか。	隠しファイルの設定になっています。ドライブのルートに「SD_VOICE」という隠しフォルダーが作られ、その中に保存されています。隠しファイル、隠しフォルダーの属性設定についてはWindows の取扱説明書をご覧ください。 お知らせ ファイル単体での保存はできません。
MP3 は、再生できますか。	対応していません。
VM1 音声ファイルを、人に渡したいのですが。	VM1 音声ファイルを渡したい相手が、Voice Editing Ver.1.0 をお持ちの場合、「メール転送形式に変換」機能を使って、VM1 メール転送形式ファイル「＊ .pvc」を作成してお渡しください。 お持ちでない場合は、VM1 メール転送形式ファイル「＊ .pvc」とVoice Editing Mini Player「VEd1_VM1_Player.exe」を作成してお渡しください。（☞ 42 ページ）
送信した VM1 メール転送形式ファイル「＊ .pvc」が相手先で再生できません。	Voice Editing Ver.1.0 で作成した VM1 メール転送形式ファイル「＊ .pvc」は、以前のバージョンでは再生できません。 Voice Editing Mini Player を相手先に送付してください。 （☞ 43 ページ）
WAVE 形式ファイルに、 どうやって変換するのですか。	Voice Editing の変換機能を使ってください。 詳しい操作方法については「VM1 → WAVE 形式に変換」（☞ 27 ページ）を参照してください。
Voice Editing で管理しているサブフォルダーはいくつまで作れますか。	パソコンのハードディスク等、書き換え可能なドライブには、1 ドライブ当たり、999 個まで作成できます。（☞ 7 ページ）
1 つのサブフォルダーに、音声ファイルは最大いくつ保存できますか。	1 つのサブフォルダーには、最大 999 個のファイルを保存することができます。（☞ 7 ページ）

次ページへ続く ▶

Q&A（よくあるご質問）

質問（Q）	回答（A）
Voice Editing で、メディア（SD メモリーカードやリムーバブルメディアなど）上のファイルを表示させているとき、メディアを交換しても問題ないでしょうか。	Voice Editing で音声ファイルを表示させているときにメディアを交換した場合は必ず、「表示」メニューで［最新の情報に更新］を選ぶか、または［F5］キーを押して、情報を更新させてください。 お知らせ　再生・転送・変換などでメディア上の音声ファイルをアクセスしている最中にメディアを抜き取ると、音声ファイルが壊れることがあります。操作中は抜き取らないでください。
SD メモリーカードに転送した VM1 音声ファイルが再生できません。	VM1 音声ファイルの圧縮形式、ADPCM2、G.726 は、それぞれ互換性がありません。 使用機器に合わせた圧縮形式に変換してください。 （☞ 49 ページ）
Voice Editing で再生できる VM1 音声ファイルが入っている SD メモリーカードを、SD メモリーカードスロット付き IC レコーダーに差し込んでも再生されない VM1 音声ファイルがあります。	SD メモリーカード付き IC レコーダーは、52 ページに記載しているファイル構造の MOB001.VM1 ～ MOB099.VM1 のみが再生できます。 MOB のファイル番号が、100 番以上の音声ファイルは、SD メモリーカード付き IC レコーダーでは再生できません。この場合、再生できない音声ファイルを別のサブフォルダー（SD_VC001 ～ SD_ VC009）に転送してください。
Voice Editing では、他のメーカーのボイスレコーダーで録音した音声ファイルを再生できますか。	Voice Editing で、再生できない音声ファイルは、音声ファイル一覧の「圧縮形式」欄に?が表示されます。?が表示された音声ファイルはサポートしていません。
Voice Editing Ver.1.0 に対応している機種名を教えてください。	D-Snap Audio：SV-SD100V/SD350V/SD750V D-Snap：SV-AV10/AV30/AS3/AV35/AV50 IC レコーダー：RR-XR330 RR-US520/US620/US007/US009 最新の対応機種については、下記のホームページを確認してください。 http://panasonic.jp/support/software/ （2006 年 4 月現在）
IC レコーダー RR-XR320/330、RR-US520/620、RR-US007/009 を持っています。 これらの IC レコーダーに付属のソフトウェアとの互換性はありますか。	上位互換です。 Voice Editing Ver.1.0 は、左記のソフトウェアの上位バージョンに当たります。

次ページへ続く

質問（Q）	回答（A）
SD オーディオプレーヤーの WAV 音声ファイルを直接再生するとき、操作できないボタンがありますが。	機能しないボタンは非アクティブ（グレー表示）になっています。

■ **サポートページもご覧ください**

最新のサポート情報が掲載されています。

［ヘルプ］メニューから［松下電器サポートページ］を選ぶ

故障かな !? と思ったら

症　状	原因・対策
インストールできない	• ハードディスクの空き容量が少ない可能性があります。 →容量を確認してください。
音声ファイルが 再生できない	• サウンドボードが付いていない（☞ 4 ページ）。 • パソコンにスピーカーが内蔵または接続されていない。 • DirectX がインストールされていない。
再生音量が小さい	• パソコン側で音量を上げてみてください。（詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください）
音声ファイルの 保存・追加・削除中に 画面が動かなくなる	• 録音時間の長い音声ファイルや大量の音声ファイルを保存、追加、削除に時間がかかります。 →保存、追加、削除が終了するまでお待ちください。 通常の操作ができるようになります。
音声ファイルが 編集できない	• ロックされた音声ファイルは編集ができません。 →ロックを解除してください。（☞ 35 ページ）
メールに添付された「VEd1_VM1_Player.exe」が受け取れない	• 電子メールソフトによっては、「＊ .exe」や「＊ .bat」の送付を制限している場合があります。 • 相手先への送付前に「＊ .exe」の拡張子「.exe」を一旦消して送付してください。相手先で「.exe」を手入力で付加した後、ダブルクリックで実行してください。拡張子を非表示にしているときは、表示の設定を変更してください。設定方法は Windows の取扱説明書をご覧ください。
音声ファイルの変換時にサブフォルダーや音声ファイル一覧が正しく表示されない	• Internet Explorer5.0 以前のバージョンをお使いの場合、表示が乱れることがあります。Internet Explorer をアップデートしてください。
Windows で「タスクバーを自動的に隠す」設定にしているとき、タスクバーが表示されない	• 「タスクバーを自動的に隠す」設定をしているときに Voice Editing を最大化表示で使用すると、タスクバーが表示できなくなる場合があります。 右上端の（表示切替ボタン）を押して最大化を解除してご使用ください。

本ソフトウェアに関するお問い合わせ先

製品に関するＱ＆Ａやアップデートなどのサポート情報については、下記のホームページをご覧ください。

- SD オーディオプレーヤー本体について
  http://panasonic.jp/support/d_snap/
- Voice Editing について
  http://panasonic.jp/support/software/

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル／パナソニック　お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話　フリーダイヤル　0120-878-365（パナは365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… 06-6907-1187

FAX　フリーダイヤル　0120-878-236

Help desk for foreign residents in Japan
〈外国人／海外仕様商品（ツーリスト商品他）等ご相談窓口〉
Tokyo (03) 3256 - 5444　**Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

■ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

松下電器産業株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

別売品

■ ソフトウェア

Voice Editing の上位 Edition は松下グループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけます。

Pana Sense　http://www.sense.panasonic.co.jp/soft/

2006 年春以前の機種でボイス録音した音声ファイルについてのご注意

2006 年春以前に発売された D-snap Audio（以降、「06 年春以前の機種」と記載します。）のボイス録音機能で録音・再生できる音声ファイルは、「VM1 音声ファイル（G.726）」です。
2006 年春以降に発売された D-snap Audio（以降、「06 年春以降の機種」と記載します。）のボイス録音機能で録音・再生できる音声ファイルは、「WAVE 音声ファイル」です。
VM1 音声ファイル（G.726）は、下記の方法で WAVE 音声ファイルに変換すると、06 年春以降の機種で再生できます。

お知らせ

- 06 年春以降の機種で再生する場合、SD メモリーカードの下記のフォルダー内に変換（転送）してください。
  G：¥PRIVATE¥MEIGROUP¥SDPLAYER¥VOICE
  （SD メモリーカードのドライブが「G ドライブ」の場合）
  変換（転送）先の SD メモリーカードに上記のフォルダーがない場合、Windows エクスプローラーなどで上記のフォルダーを作成してください。
- 06 年春以前の機種については、「扱える音声ファイルの形式（☞6 ページ）」を参照してください。
  また、最新の対応機種については、下記のホームページで確認してください。
  http://panasonic.jp/support/software/

❶ SD メモリーカードをパソコンに接続する

❷ [WAV] をクリックして、下の「WAV 変換ウィンドウ」を開きます。

❸ 上ウィンドウで SD メモリーカードのドライブとサブフォルダーを選ぶ

VM1 音声ファイル（G.726）のファイル名（タイトル）が表示されます。

お知らせ

ファイル名（タイトル）が表示されない場合、「表示」メニューから［カナ表示］を選んでください。

次ページへ続く

❹ 下の「WAV 変換ウィンドウ」で SD メモリーカードのドライブと下記のフォルダーを選ぶ

G：￥PRIVATE￥MEIGROUP￥SDPLAYER￥VOICE
（SD メモリーカードのドライブが「G ドライブ」の場合）

❺ 変換したい VM1 音声ファイル（G.726）を選ぶ

（☞ 10 ページ「複数の音声ファイルを同時に選ぶには」）

❻ [↓] をクリックする

- 「WAV 変換ウィンドウ」に変換（転送）した WAVE 音声ファイルが表示されます。
- 06 年春以降の機種に SD メモリーカードを入れると再生ができます。

お知らせ

- 上ウィンドウと下ウィンドウの両方で、同じ SD メモリーカードを選ぶことができます。
- 変換した後の VM1 音声ファイル（G.726）は、SD メモリーカードの中にそのまま残ります。

- パソコンの環境によっては音声データの転送ができなかったり、転送したデータが使えない等の不具合が発生する場合があります。
  お客様の音声データならびにその他の直接／間接的な障害につきましては、当社および販売店等に故意または重過失がない限り、当社および販売店等はその責任を負いません。
- 本製品、および本書の内容に関しましては、事前に予告なしに変更することがあります。
- 本書では、OS が Windows XP のときに表示される操作画面例を使用しています。また、本書のイラストや画面は一部実際と異なる場合があります。

松下電器産業株式会社
ネットワーク事業グループ
〒 571-8504　大阪府門真市松生町 1 番 15 号

MSC0150AD_J_XA
M0206KH-2046
1.0DA_Pa_L00